

大田区自立支援協議会 防災・あんしん部会議事録

文責：事務局

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第2回 防災・あんしん部会			
(2) 開催日時	令和7年8月6日(水) 13:30 ~ 15:30			
(3) 開催場所	障がい者総合サポートセンター A棟5階 多目的室			
(40) 出席した 委員、事務局等 ＜敬称略＞	志村 陽子(部会長)		(以下の方は委員)	
	蛭子 明子	山内 京子	竹内 千代江	
	栗田 修平	生駒 友一	北畠 拓也	西條 由美子
	石塚 由江	窪田 千亜紀	川端 英吏子	大江 千枝
	事務局：山下 潤二、檜山 咲紀、上玉利 芳綱			

1 連絡・確認事項

(1) 司会・書記の確認(司会：志村部会長、書記：事務局)

(2) 参加者の自己紹介(7/16の合同部会に不在だった初参加の委員のみ)

北畠委員と窪田委員から自己紹介

2 前回専門部会の振り返り

前回の議事録の一部とご意見カードのまとめを、事務局が読み上げた。

ヘルプカードの完成時期は、本年の12月末を予定している。

3 議題

(1) 上半期スケジュールの再確認

- ・2年単位の上半期なので、令和7年が上半期、という意味になる。
- ・第3～7回で動いて、第8回でまとめとなる見通し。

(2) 防災・あんしん部会 上半期の取り組みについて

どのように取り組んでいきたいか、アイデア・意見出しをおこなった。

＜挙げた意見＞

- ・「地域とつながる」は、人によってイメージが違う。
- ・オブザーバー参加の人から学ぶのはどうか。
- ・他部局の取り組みとのタグ。さぼーとぴあのお祭りと何かできないか。以前に部会としてブースを出させてもらったことがある。
- ・人権カフェ。ユネスコから日本へ、教育勧告が出ている。カード型教材を使って、グローバルな視点の物。データで見つけてある。
- ・デンマーク発祥のヒューマンライブラリー。人の話を聞く、語り聞き。いろんな人に向けての発信。10分間でケアリストとして語りをしてください。

⇒栗田委員が実際に語り手として参加した経験あり。

⇒サポートセンターでも実施している。反響がいい事業で何回か実施している。2022年からスタートし、毎年実施。また次回、3～4人に講師をお願いするよう調整中。

- ・地震災害への不安や心配。一人暮らしであり、毎日がドキドキ。安心に重点を置きながら、部会の場で、少し話せて、煮詰め、発信し、施策に反映できればいいと思う。

区内には高齢者も多く生活している。

- ・ワークショップ。自分で防災手帳を作る。自助。自分に必要な物を書き出したり、シールを貼ったりするキットがあったりする。委員みなさん自身の生活から出てくる気付きは、周囲の人にとっても新たな気づきになったりする。手帳は1冊1,000円ぐらいで、印刷可。公開データもあるので、のちほど事務局へ共有する。キットのデータは公開されている。発災後、自宅で数日、やや中期的に過ごさなければいけない場合、何がどれだけ必要かを考え洗い出すことに役立つツール。ヘルプカードは、外出先で役立つものなので、この防災手帳とは違う機能。
- ・地域に出ていく、という話の講師、大学の教員で一人心当たりがある。まちづくりと福祉の専門。防災計画などを研究しており、避難経路に坂道があるとうなるか、など市民を巻き込んで実践されている。参考になる話が聞けそう。講師料を部会から支出可能かどうか知りたい。
- ・個別避難計画の進捗も聞きたい。
- ・11月にある福祉と文化のスペシャルデーの場で、私たちのことをもっと知ってもらえたらと思う。交流も含めて。
- ・発災時のことを考えると、部会のことを、一般の地域住民にもっと知ってもらうことが大事だと以前から感じていた。住民全員が避難所には入れない。個人で必要な備蓄量はどのくらいなのか、非常用トイレを組み立ててみたことがある人がどれだけいるのか。周知啓発。サポートセンターのカフェに掲示で、きっかけにならないか。人を集めたい、見てもらいたい。一般の人が見てもらうところに掲示してはどうか。
- ・社協のコミュニティSWの人とも繋がりたい。
- ・自分の地域でも、小学校の校長や企業などとの連携は日頃からおこなっている。
- ・部会から「防災・あんしん部会だより」を出してみるのはいかがでしょうか。
- ・要介護者も、助けてもらうだけでなく、取り組んでいることの発信もしていきたい。
- ・「地域とは」にフォーカスするだけでもいろいろなことが考えられる。
- ・日常で困っている個別の事例を皆で考えることで、他の人のアイデアを知ることが可能になる。
- ・周囲からやって欲しいことは何か、を障がいのある当事者から発信していく、知ってもらう必要がある。たとえば、まさに今日も、一声かけてもらえれば違ったのに、という場面に遭遇した。お店の中の手洗い場で、手動で開閉するドアが勝手に開いていたのでとても驚いてしまった。次に待っている人が、白杖に気付いて厚意で開けておいてくれたらしい。一言あれば、自分も厚意を受け止められるし相手の方へお礼も言えたと思う。相手の方も、かえって不快に思ってしまったかも。
- ・今日あったことや身近なことを話してもらえると分かりやすいし、この部会だからできること。
- ・OWAT（大田区災害時福祉支援チーム）は、発災後5日を目途に指定避難所を巡回し、避難している高齢者や障がい者など要配慮者から聞き取りをして、区へ繋ぐ役目を担う。今後の新しい情報が出たら部会で共有できる。

<結論・今後の方向性>

- ・11/3のスペシャルデーを第一の目標にする。ヒューマンライブラリー的なこと、これまでの活動実績の展示などを行うのかどうか、次回で考えたい。

3階のボランティア室なら場所を使わせてもらえそう。

4 委員及び各関係機関からの情報提供

(1) 情報提供

- ・ 7月23日 矢口特別支援学校福祉避難所解説訓練 見学報告

委員2名（栗田委員、石塚委員）、事務局1名が参加。

先生方の動きが、慣れているようでとてもスムーズで良かった。

班ごとに分かれて、班の間の交流をもち、学び合いをおこなっていて、かなり実践的な動きを取って訓練に取り組まれていた。

受付に筆談ボードを用意されていた。新しい試み。

受付では「ヘルプカードをお持ちですか」と聞かれた。

栗田委員が聞こえない避難者の役を演じ（あえて補聴器を外してみ）、受付のシミュレーションをする様子も資料の写真に載っている。

要配慮スペースについては、もともと建物は知的障がい者への配慮がある造りで、仕切りやクールダウンに使える場所や環境設定などの合理的配慮についても、想定・準備がされていた。

避難者カードは世帯単位で作成。

仮設トイレは5か所設置可能。要配慮者が使いこなせるかが課題。

避難者の第一優先は、学校に通っている人。ほか、帰宅困難者の受け入れ先にもなっているとのことだった。

最後に、試食レトルトのカレーをいただいた。温めずそのまま食べられる。

午後の講演は、世田谷の災害ボランティアセンターの方が講師。曹洞宗の僧侶の方。

被災から少し経つと、自分たちの街を自分たちで復活させたい、というマインドが湧いてくるそうだが、地域力が低いと困難。現場でのヒアリングを始まりに活動。石巻市でも活動経験もある方。「傾聴」がいかに大事かという話もあった。

(2) 事務局から

- ・ ヘルプカードのメモ挿入について

⇒今回はこの形で良いが、次回は、説明書きがピンクの紙に書き込んで一緒にしてもいいのではないか、と意見があがった。

- ・ 次回以降の司会と書記について

⇒資料のとおり、委員の中で、輪番制で担当していくことを確認した。

委員から

- ・ 8/9 映画上映会のイベントの紹介。

- ・ 8/30 ぼうさいこくたい@新潟 のイベント紹介。オンライン参加可能。

(3) ご意見カードの記入

※次回の日程 第3回専門部会：令和7年9月3日（水）13時30分～15時30分

会場：さぽーとぴあA棟5階多目的室